令和５年度　公約推進のためのまちづくり懇談会
質 疑 応 答

日　時：令和５年 10 月 28 日（土）午後４時～5 時 30 分
場　所：美喜仁桐生文化会館　４階　スカイホール
参加者：一般 112 名、報道機関２名　　合計 114 名

質問者 A	図書館の建て替えについてとても楽しみにしている。先ほどの説明の中ではこれから検討してくということであったが、市長はどのような図書館にしていきたいと考えているのか聞かせていただきたい。
市 長	どのような図書館にしていくのか、機能や蔵書のジャンル、規模はどの程度かなどについて、市民の方々へお話を伺うワークショップを開き、様々な意見を聴取し、最終的な図書館のあるべき姿を見出していければと考えている。図書館には図書館協議会の方々が中心となってこれまでも様々な運営にお力をいただいているが、特に子どもたちの将来において非常に大切な施設にしたいと考えている。もちろん建て替えや改築にはお金がかかることであるため、財源についてどのような形で市民負担が少ない中で確保がきるのかをこれから考えていかなければならない。いずれにしても、私の意見としてどのような図書館にするのかということではなく、広く市民の皆さんの声を聴かせていただく中で最終的なあるべき姿を見出していきたいと考えている。
質問者 A	丁寧な説明いただきありがたい。自分自身も子どもと本を借りに行ったりイベントに参加したり楽しい思い出が沢山ある。新しい図書館でも子どもたちが安心して利用し、楽しい思い出が沢山できるような図書館にしていただきたい。
市 長	子どもたちがあの図書館があるから桐生は楽しいと思っていただいたり、市外の方からあの図書館があるから桐生で暮らしたいと思っていただけるような図書館ができればよいと考えているので、しっかりと検討してまいりたい。

質問者 B	どれも素晴らしい政策であったが、子を持つ親として質問をさせていただきたい。球都桐生プロジェクトの催しでは斎藤佑樹さんのスペシャルアドバイザー就任や栗山英樹元監督の講演会など大変楽しませていただいた。球都桐生プロジェクトについて、来年度事業の予定やこのプロジェクトの目的について詳しく教えていただきたい。
市 長	来年度の具体的な取組についてはこれから計画していくことになるが、今年も実施した球都桐生ウィークについては、来年も進めていきたいと考えている。球都桐生ウィークで実施した取組について、是非参加したいという話が複数の自治体から問い合わせがあるなど反響が大きかった。内容については、市がマネジメントを委託している㈱ノッティングヒルの代表である荒木重雄さんを中心に調整していただいているが、今後も更にバージョンアップしたプロジェクトにしたいと考えている。また、このプロジェクトの最大の目的は、桐生市の活性化であり、桐生市が持つ元気や価値を広く全国に発信することにある。また、目的の一つでもある健康な青少年の育成については、今年、球都桐生セミナーに日本スポーツマンシップ協会会長の中村さんにお越しいただき、スポーツマンシップについて講演をしていただいた。講演内容については、桐生のすべての子どもたちやこれから中学校のクラブ活動が地域移行する中で地域の外部指導員の方々にも是非聞いていただきたいような素晴らしい内容であった。このセミナーについて、学校の先生や子どもたち、外部指導員の方々に対して講演することができないかということを教育長へ伝えている。具体的にはスポーツマンが持つ 3 つの心として「尊重」「勇気」「覚悟」がある。これを全ての子どもや全ての方々が理解を深めていくことにより、スポーツの底上げになり、街も良くなり、いじめもなくなり、社会全体が良くなっていくというところまで進めていくという取組である。「尊重」というのは相手を認めるということで、良い試合だったと思えるのは、良い相手がいるということであるため、相手を尊重するということ。「勇気」については、様々なところで判断したり、決断するのには勇気がいるということで、これを何も勇気を持たずに決断してしまうと、0(ゼロ)にいくらかけても 0 となってしまい、頭でいくら考えても前に進まなければ何もできないため勇気が必要であるということ。「覚悟」については、尊重や勇気を持ち続けてしっかり継続できる心を持ってくださいということ。このようなスポーツマンシップの心を我々大人も含めみんなが共有することにより、より良いまちづくりや健全な子どもの育成に繋がると考えているため、継続して取り組んでいきたい。また、スポーツ全体の活性化についても、先日、陸上競技場である森エンジニアリングスタジアムで帝京大学と筑波大学の関東大学ラグビーの公式戦が行われ、通常であれば誘致は難しいことであるが、ラグビーに携わる方々の熱意、ご努力により実現したものであり、大学ラグビーを誘致する礎ができたため、これからも引き続き実施できるよう取り組んでまいりたい。また、市民体育館のこけら落としでは、プロバスケットボールチームである群馬クレインサンダーズの公式戦を実施できた。桐生では、野球を題材にした取組を行うことにより、野球のみならずこのようにスポーツ全体の底上げをできるようにこれからも取り組んでまいりたい。

質問者 C	人口減少対策について、交流人口を増やすことや移住定住の促進策については大変有効であると考えるが、それにしても全体としては人口は減少していくため、上手に規模を小さくすることについて、市長の考えを聞かせていただきたい。
市 長	人口減少を横ばいから増やすということは今の日本の構造からすると非常に難しいため、人口が減る中でどのような街づくりをしていくべきか、ダウンサイジングのまちづくりを考えるということがこれからの自治体に求められることである。その中で人口については、国立社会保障・人口問題研究所から示された 2040 年の将来推計人口が約 75,000 人であるところを、桐生市が目標とする将来人口が約 83,000 人としており、この差を人口減少対策により具体的な数値を検証しながら、施策を実施してまいりたいと考えている。ただし、子育てや男女共同参画の先進国であるスウェーデンやデンマークでは、手厚い施策を行っているにも関わらず人口が著しく減少しているということで、世界的な規模としてもこのような状況となっている。人口が減少する中でどのような姿を示していくのかということが求められてくると思われるため、これからも総合計画の推進協議会において、今いただいた意見なども協議させていただき、人口が減る中でのまちづくりのあり方や桐生のあり方について考えてまいりたい。